

## ～ちょっと気になる感染症～

### すいとう 水痘(水ぼうそう)について

#### ◆水痘(水ぼうそう)とは

すいとうたいじょうほうしん  
水痘帯状疱疹ウイルスの感染により、全身性でかゆみのある水疱や発疹が、発熱などの全身症状を伴って出現します。ウイルスの感染力は強く、ワクチン未接種者では10歳までに約80%の小児が感染するとみられています。

これまで冬から春にかけて流行していましたが、2014年の水痘ワクチン定期接種開始からは小児の発生数は減少し、季節性の変動はほとんどみられなくなりました。

#### ◆症状について



感染から10～21日程度の潜伏期間を経て、発疹が現れます。発疹は全身に現われ、頭皮や口腔などの粘膜にも出現します。かゆみを伴い、こうはん きゅうしん すいほう かひ  
紅斑・丘疹・水疱・痂皮(かさぶた)が混在するのが特徴です。

他に、倦怠感、38℃前後の発熱が2～3日続きます。

一般的に健康な小児は軽症で、予後良好とされていますが、中には重症化し入院が必要になったり、死亡することもあります。成人では小児に比べ重症化しやすく、死に至る危険性もあります。

合併症として、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、中枢神経合併症(無菌性髄膜炎、脳炎など)があります。

#### ◆感染経路について

空気感染と、水疱内容物との接触感染で感染が広がります。

発疹が出現する1～2日前から、すべての水疱が痂皮化

(かさぶた化)するまで感染性があります。

#### ◆予防について

水痘ワクチンを接種することが有効な予防方法です。



#### ◆水痘ワクチンについて

○ワクチンの種類 生ワクチン

○対象年齢 1歳～3歳の誕生日の1日前まで

※対象年齢外で接種された場合は任意接種(有料)となります。

○接種回数 2回

ワクチンの接種により抗体が獲得されても、水痘流行時に発症することがあります。ただし、この場合の水痘は極めて軽症です。

また、患者との接触があつてから72時間以内に接種することで、発症を予防または軽症化できる場合もあります。

接種については、かかりつけ医とご相談ください。

#### ◆学校保健安全法による 取り扱い

水痘(水ぼうそう)は学校において予防すべき感染症第二種に規定されており、すべての発疹が痂皮化するまで出席停止とされています。